



2021年12月期

# 決算説明会資料

2022年2月24日  
株式会社和心  
東証マザーズ(9271)



# 目次

---

1. 会社概要
2. 2021トピック
3. 業績説明
4. 2022戦略

# 会社概要



『日本のカルチャーを世界へ』

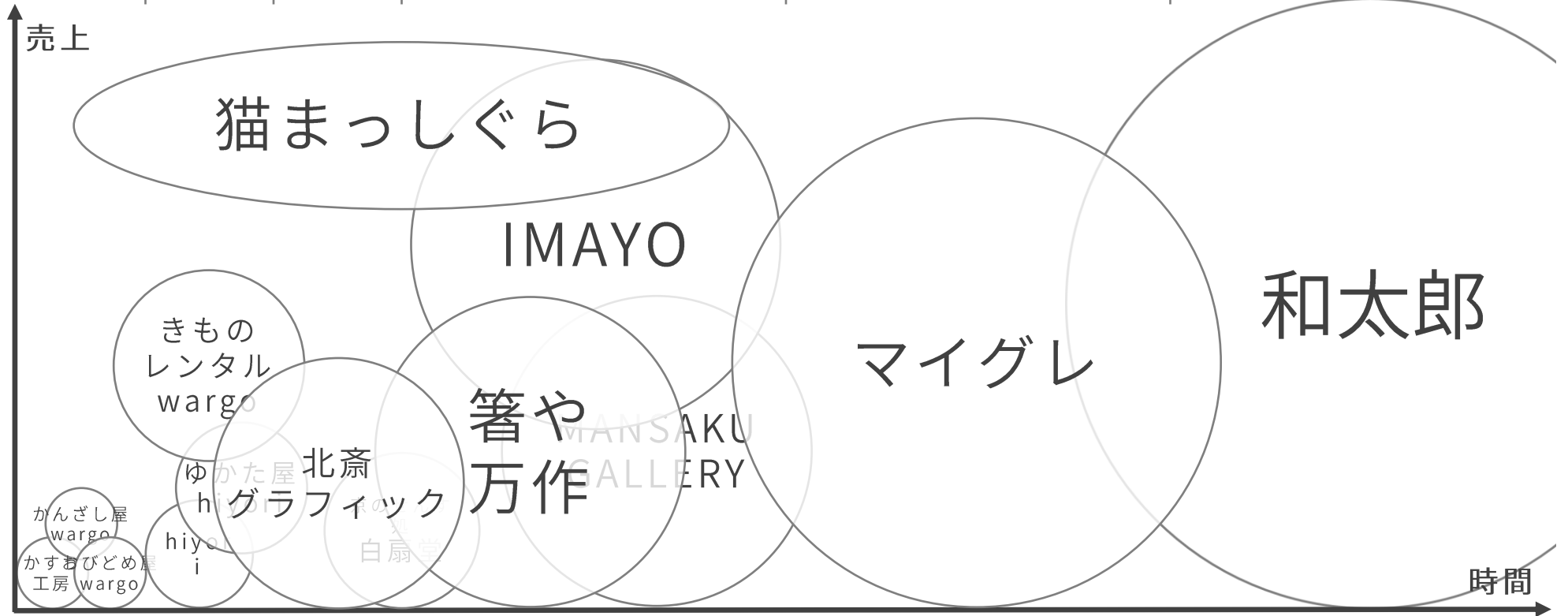
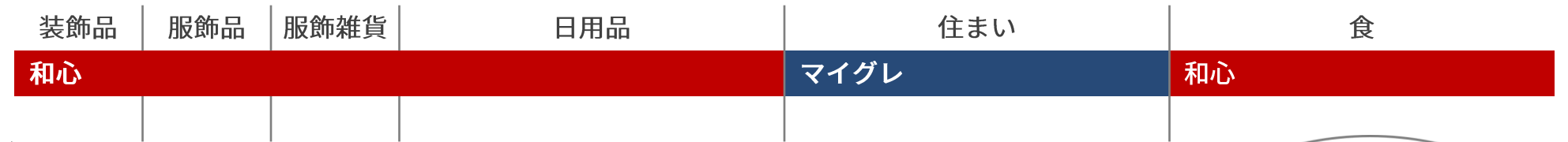
Japanese culture to the world

# 会社概要

会社名	株式会社 和心			
設立	2003年2月7日（1997年7月創業）	役員	代表取締役社長 取締役副社長 専務取締役 取締役法人営業部長 社外取締役監査等委員 社外取締役監査等委員 社外取締役監査等委員	森 智宏 他力野 淳 最上 夢人 小田桐新五 山田 奨 白潟 敏郎 深井 未来生
資本金	603,486千円（2021年12月31日）			
本社	東京都渋谷区千駄ヶ谷3-20-12和心ビル			
店舗数	<b>45</b> 店舗（モノ事業33店舗、コト事業12店舗）			
従業員数	<b>285</b> 名（非正社員243名含）	子会社	マイグレ株式会社	
事業概要	モノ事業	和雑貨の企画・デザイン、製造、販売（店舗・EC）		
	コト事業	着物の着付・レンタル（店舗・EC）		
	食肉事業	食肉の卸売、小売（EC）		
	マイグレ	地方移住者向け不動産の賃貸、宿泊事業		

# 沿革（事業の変遷）

観光地から居住地、より生活の基盤に近いビジネスへ。



# 2021トピック



## 2021トピック（まとめ）

---

新型コロナウイルス感染症の拡大により、緊急事態宣言の発出やまん延防止等重点措置が適用され、依然、厳しい経営環境が続いている。

この環境下に対応すべく、以下の施策を2021年下期に実施済。

既存事業	1.全赤字店舗の閉鎖 2.催事の強化 3.SNS強化
新規事業 (食肉事業)	資本業務提携
子会社 (マイグレ)	温浴施設の強化
財務部門	資本増強

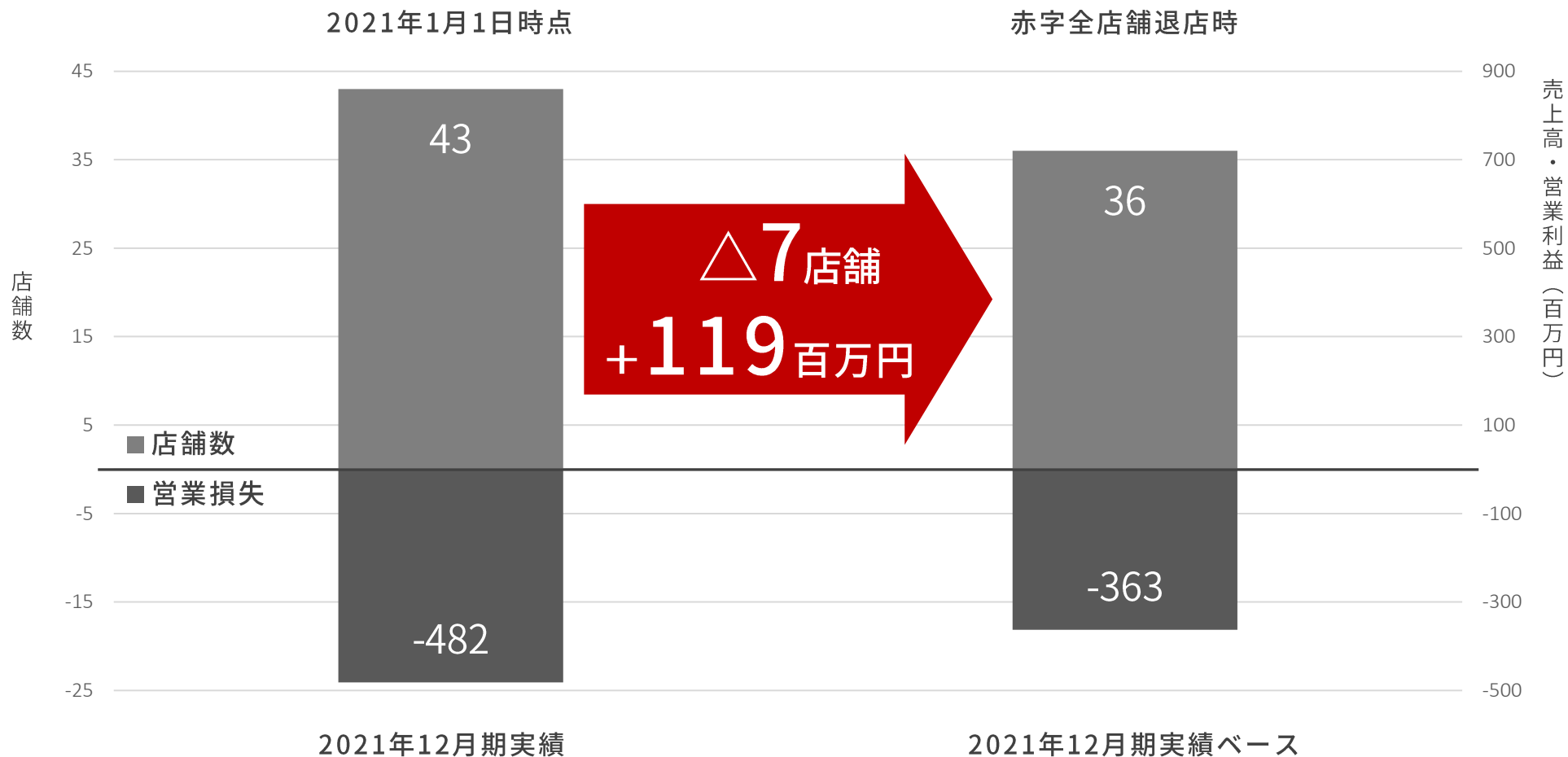


# 2021トピック - 既存事業



# 2021トピック-既存事業：全赤字店舗の閉鎖

店舗削減効果は、2021年通期実績値で+119百万円。



## 2021トピック-既存事業：催事の強化

評価減済の既存在庫（売上原価ゼロ）を活用し、固定賃料・固定人件費を要せず営業利益を獲得。

会場	期間	売上	営業利益
東京スカイツリータウン 東京ソラマチ・2F中央広場	06/17(木)-06/30(水)	392万円	254万円
国分寺マルイ・1F	07/06(火)-07/20(火)	494万円	285万円
東京スカイツリータウン 東京ソラマチ・2Fエスカレーター前中島	09/11(土)-10/04(月)	360万円	198万円
なんばマルイ・2F	09/14(火)-09/28(火)	60万円	-19万円
東京スカイツリータウン 東京ソラマチ・B3F	11/03(水)-11/14(日)	79万円	19万円
横浜マルイ・B2F	11/05(金)-12/09(木)	201万円	23万円
上野マルイ・1F	12/16(木)-12/31(金)	108万円	30万円
	合計	1,694万円	790万円

47%の営業利益率を達成！

# 2021トピック-既存事業：SNS強化

SNS上での情報発信機会を大幅に拡大し、ポストコロナ社会におけるCRM活動を強化。



# 2021トピック - 新規事業



## 2021トピック-新規事業（食肉事業）：資本業務提携

---

ダンダダン酒場運営会社を子会社に持つNATTY SWANKY  
ホールディングス（東証マザーズ・7674）と資本業務提携。



肉汁餃子のダンダダン ×



食肉卸のプラットフォーマーとして業界の新たなエコシステム  
を構築。

# 2021トピック-子会社



## 2021トピック-子会社（マイグレ）：温浴施設の強化

グランドオープンから好調の宿泊施設は、全施設に露天風呂・サウナの追加工事を決定。



2棟稼働中、2022年3月には更に2棟オープン！  
1棟は熱海市に初オープン！



# 2021トピック - 財務部門



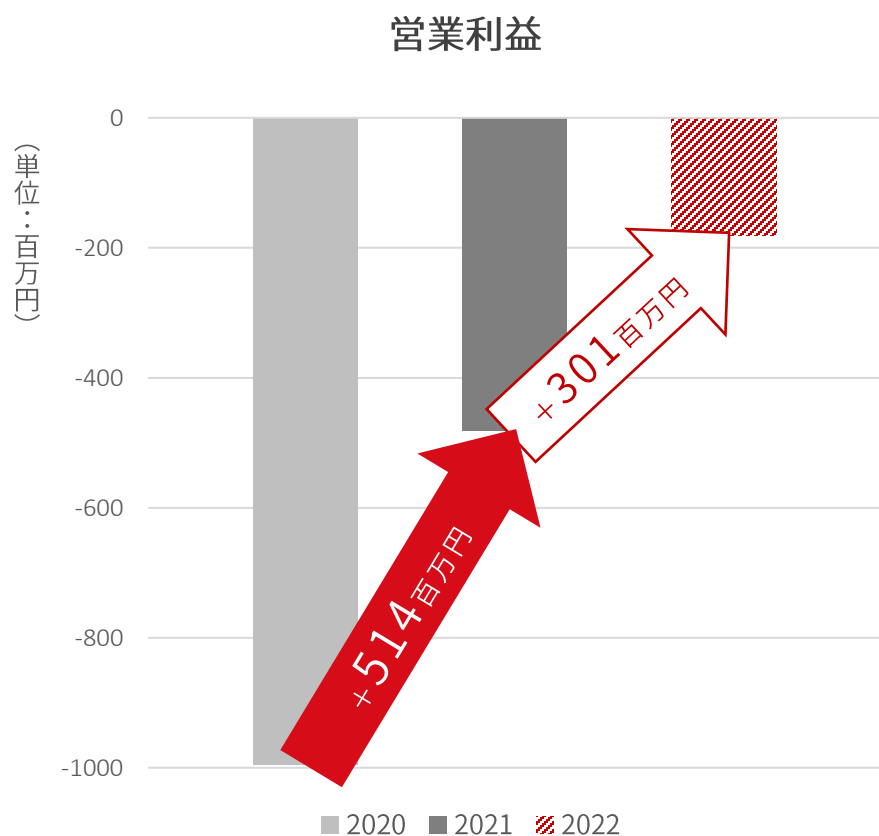
Evo Fundの  
MSワラント権利行使により  
123百万円の資本増強を実行。

# 業績説明



# 損益計算書

2021年通期実績としては営業利益が前期比514百万円の改善。  
2022年通期予想では更に301百万円の改善見込み。



	2020年 12月期 実績	2021年 12月期 実績	2022年 12月期 予想	前年同期 比率
売上高	1,288	902	975	△30.0
売上総利益	699	706	816	101.0
販管費	1,696	1,194	998	△29.5
営業利益	△996	△487	△181	50.9
経常利益	△993	△493	△177	50.3
当期純利益	△1,255	△554	△177	68.9

(単位：百万円)

# 貸借対照表

	2020年 年度末	2021年 年度末	増減		2020年 年度末	2021年 年度末	増減
流動資産	457	245	△212	流動負債	628	639	11
現預金	224	126	△98	買掛金	15	11	△4
売掛金	65	54	△11	短期借入金等	263	230	△33
商品	40	12	△28	未払金	193	174	△19
その他	127	51	△76	その他	156	181	25
固定資産	480	321	△159	固定負債	409	360	△49
有形固定資産	168	129	△39	長期借入金	407	359	△48
無形固定資産	18	18	△0	その他	1	0	△1
投資その他資産計	293	174	△119	株主資本計	△112	△473	△353
繰延資産	0	0	△0	純資産合計	△99	△433	△334
資産合計	938	566	△372	負債・純資産合計	938	566	△372

(単位：百万円)

**当期末債務超過も、資本増強により債務超過拡大幅は  
営業損失比で限定的。**

# 2022戦略



## 2022戦略（まとめ）

---

2022年通期予想は、営業損失の大幅縮小。

既存事業	1.催事の強化 2.SNS強化
食肉事業	販路拡大
子会社 (マイグレ)	1.賃貸→宿泊 2.所有→運営 3.その他
財務部門	債務超過の解消

# 2022戦略-既存事業

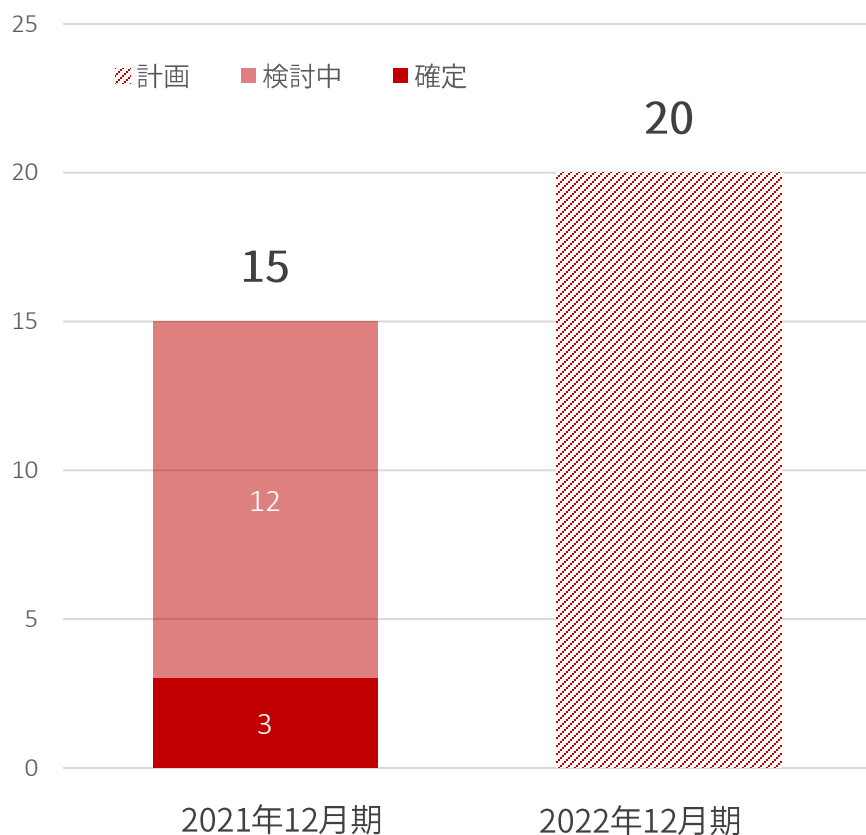




# 2022戦略-既存事業：催事の強化

2021年催事好調につき、開催数を増やし営業利益増を目指す。

開催計画と進捗



# 2022戦略-既存事業：SNS強化

## SNSの利用方法を変更。

例 1	01/21 (金)	いけちゃん様 @ikechan0920		 8.3万
				 6.2万
例 2	02/04 (金)	花瀬あいか様 @fleur1214_		 6,703
				 2,980

× 広告 → ○ インフルエンサー

※ フォロワー数は例1：2022/2/8時点、例2：2022/2/7時点

# 2022戦略-食肉事業



## BtoCの通販開始。

### 「精肉卸問屋 和太郎」 楽天市場店

最高ランクの黒毛和牛の中から「精肉卸問屋 和太郎」が厳選したお肉をお届け

会社概要 | レビューを見る | メールマガジン登録 | お気に入り登録 | お問い合わせ | 

焼肉 | ステーキ | セット商品 | お得セット

肉の王様

神戸ビーフ  
ランプステーキ  
赤身の中に見える上品な霜降り



# 2022戦略-子会社



## 『住宅→宿泊→高級宿へ』

### 1 住宅事業から資本効率がより良い宿泊事業へ。

→住宅事業は年間利回りが10%と安定感はあるが上限が低いので、安定感はないが上限が高い宿泊施設にリソースを移します。

### 2 宿泊事業においては、施設の充実を図り高単価へ。

（既存施設は変更済みで、今後の新施設にも対応済み）

a, 温浴施設強化

サウナと水風呂を設置、露天風呂を設置。

b, 衛生面強化

プラズマクラスターエアコンや空気清浄機の追加設置、自動開閉蓋の非接触トイレへ変更。

c, その他設備品の強化  
（家電家具の強化）

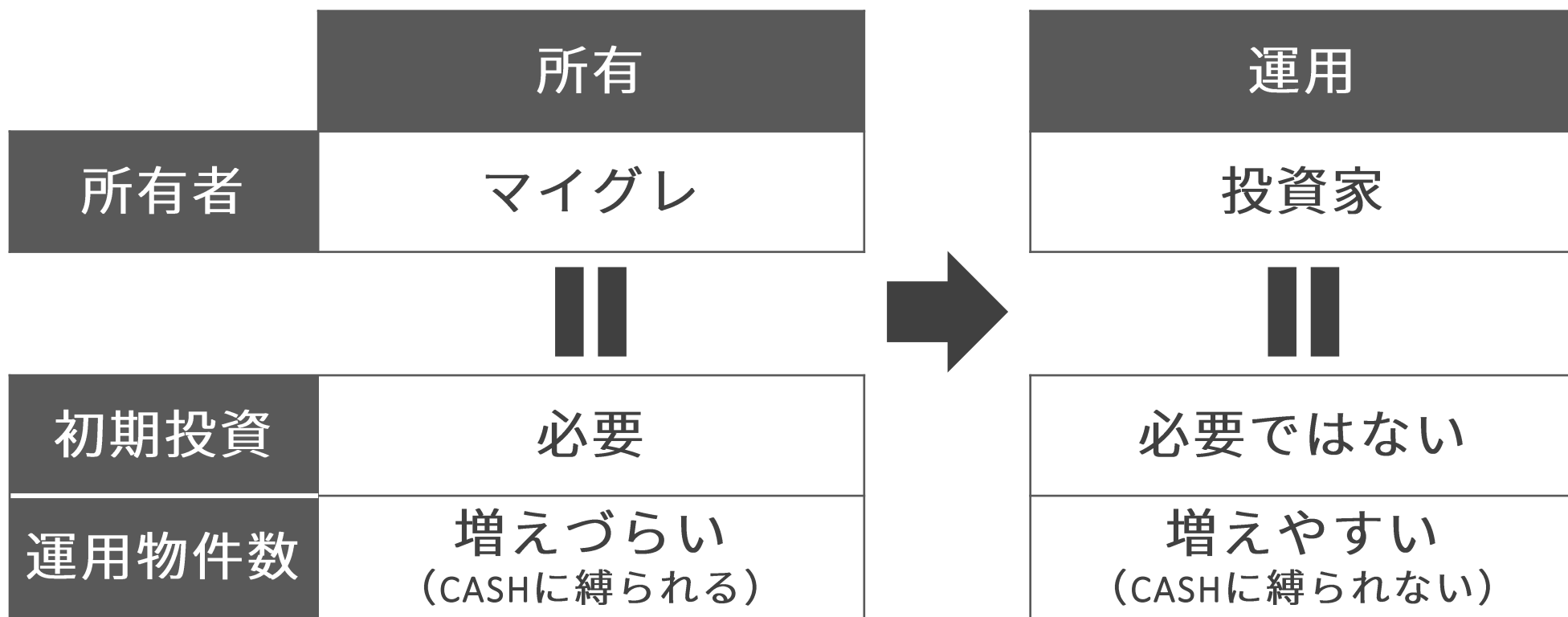
主たる家電はバルミューダ社のものへ変更、また家具も既存の施設のものよりも価格帯を上げて選定しました。



今後は、**コロナ禍により強い施設**に変更していきます。

## 2022戦略-子会社（マイグレ）2.所有→運営

持たざる経営でスピード感アップ。



投資家に購入してもらう物件の運用することで資本効率が上がる。今後はより大きな成長が見込めます！

新築にチャレンジ。グランピングにチャレンジ。





# 2022戰略-財務部門



### 債務超過の解消。

- ① 上場廃止に係る猶予期間は**2023年12月末迄**となる見込み。  
エクイティファイナンスの実行により債務超過の解消を目指す。
- ② 既存のMSワラント活用により現時点においても債務超過を大幅に解消することが可能だが、現在の低い株価の下では無駄な希薄化が生じるため、**株価の向上を努める**。
- ③ **既存株主と連携強化**し、効果的に債務超過の解消・株価の向上を目指す。



当資料に記載されている意見や予測は、当資料作成時点における当社の判断に基づき作成しております。  
これらは、現在における見込み、予測及びリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招きうる不確実性を含んでおります。  
それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。  
今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は本資料に含まれる情報の更新・修正を行う義務を負うものではありません。